

木 園 新 聞 図 書

1 (毎週土曜日発行) 雑誌20154-2 (昭和51年4月21日第三種郵便物認可)

後世に残る超一流の研究書

想像を絶する壮大な実証研究を、的確でこなれた日本語にした訳者の力量に脱帽

杉田米行



▼ブルース・カミングス著、渡辺将人訳『アメリカ西漸史』《明白なる運命》とその未来100年刊、A5判七二〇頁、本体八〇〇〇円・東洋書林

B・カミングス著『アメリカ西漸史』(東洋書林)を読む

すごい! というのが本書(原書、翻訳書とも)を手にした際の感想である。原書672ページ、翻訳書720ページ、超大作である。著者のブルース・カミングス氏は朝鮮半島事情やアメリカの東アジア政策史研究における世界の第一人者である。訳者の渡辺将人氏はカミングス氏の秘蔵っ子ともいえる存在で、日本を代表するアメリカ政治

外交史研究者である。渡辺氏は本書の深い理解を背景とし、的確でこなれた日本語に訳出している。そのすばらしい訳は本書のタイトルの日本語訳に凝縮されている。原書のタイトルを直訳すれば、「海から海までの領地…太平洋の優勢とアメリカのパワー」となるが、原書の核心的確に把握している訳者だからこ

その『アメリカ西漸史』《明白なる運命》とその未来》と意識できるのである。訳者の力量に脱帽。本書は以下のように5部構成となっている。第1部 裡なるフロロニア、第2部 海から輝く海へ—《明白なる運命》、第3部 太平洋諸州とニューイングランドの人々、第4部 「地球の外皮」—多相の地、カリフォルニア、第5部 ある臨界点。また、原書には膨大な注釈(38ページ分)と参考文献(36ページ分)が付されており、翻訳書でも注釈(15ページ分)と参考文献(15ページ分)が掲載されている。まさに想像を絶する壮大な実証研究であり、カミングス氏のライフワークともいえるべきものである。

本書のテーマをひとことでは言え、アメリカの世界における役割をめぐる『太平洋主義』の解釈を提示してみた(1)(p. 11)ということである。カミングス氏は、カリフォルニア州と東アジアに焦点を絞りながら、太平洋主義を基調にしてアメリカの発展史を再検討している。カミングス氏は、アメリカとヨーロッパの関係を重視する従来の大西洋主義を基調とした視点でアメリカを理解することを批判し、アメリカ西部および東アジアとの関係がアメリカの発展に大きな影響を与えてきたことを重視している。「19世紀半ばから」150年間以上、西部の太平洋岸はアメリカの成長のエンジンだった(p. 13)とカミングス氏は考え、将来、カリフォルニア州を軸とするアメリカルニア州と中国・日本・韓国を中心とするアジア諸国が協力関係を結ぶことによって、「人類史上初めて、太平洋文明を創造するに違いない」(p. 4)と楽観的に予測している。本書には5つの大きな特徴がある。第1の特徴は「統合」を重視していることである。「アメリカを考える上で国内双方の視点のあいだにある境界線を取り払い、その両者を満たそうという一冊」(p. 10)だとカミングス氏は述べている。カミングス氏は本書で、西部フロロニア開発、移民、テクノロジ、交易、農業、人種、環境、生活様式、アメリカの対東アジア政策など、これまで個別に研究されてきたことを的確に統合している。アメリカの多様性の有機的連関性を示すという点では非常に大きな貢献である。本書の第2の特徴は、ルイス・ハーツに依拠し、カミングス氏は、アメリカが封建制を経験せず、近代から始まっ

た国なので、「生まれながらが、後者は不平等なものだとにして自由」(p. 3) 近く代りからなる、極めて「例外のな国である」(p. 3) と理解している点である。そして「アメリカは(大西洋と太平洋という)2つの大洋に手を伸ばすだけの力を持つている」。

本書の第4の特徴は、西部の唯一の超大国(p. 3)なので、アメリカを「現在の地位にまで押し上げた」(p. 4)と主張する。つまり、アメリカの西部への膨張とアメリカの覇権の樹立を統合的にとらえるとともに、それを肯定的に理解しているのである。

本書の第3の特徴は、カミングス氏がアメリカとヨーロッパの関係(大西洋主義)とアメリカとアジアの関係(太平洋主義)が「まったく異なる」(p. 4)と主張している点である。カミングス氏は、前者は平等で互恵的なものである。

ンクス氏は、太平洋への膨張と開発を支えたのが政府だと主張する点である。大陸横断鉄道敷設、シリコンヴァレーにおける産業政策、軍需、国防総省を中心とした軍産学複合体の形成・発展等、太平洋地域の発展にとって大きな政府は不可欠の存在だった。

西漸運動を肯定的にとらえる見解や大西洋主義と太平洋主義を異質のものとしてとらえる見解など、カミングス氏の理解には多くの異論も存在するだろう。そういった意味で本書は今後の議論の起爆剤となるだろう。本書は後世に残る超一流の研究書であり、アメリカ史・アメリカ外交史、東アジア国際関係史を研究する者にとっては今後長く必読文献となるであろう。

堀江朋子著
菅原道真と
美作菅家

藤原時平の讒言によって、大宰府に流された菅原道真。疫病、落雷、千載、洪水……。天変地異を引き起しながらの怨霊から、学問の神、農業の神へと神格化された菅原道真、全国に存在する伝説・伝承を訪ねる旅とエッセイ。

四六判上製 定価・本体2000円十税

図書新聞

蔵書リストの作成もお任せ

【次回掲載に

月々250円でマイ図書館が作れます。詳しくはウェブで。

東京書庫株式会社 今すぐ検索 フリーダイヤル0120-283341

双文社出版

改造社
国民文
内藤由直著
孝子・素
眞有澄著

小波
藤本芳則著
新美南
西田谷洋著

近代病院ができて150年、
よつやく日本人は
病院の通史を持つことになった。

日 歴史年表

【好評発売中】

新・井
実例文
豊 慣 語 サ コ